

MUJINTO

The Alumni Association of Otani University

無 書 燈

2008年9月
No.130



大谷大学同窓会

「よき縁にめぐまれて」

山田知子先生にインタビュー



本学の短期大学部幼児教育科（現幼児教育保育科）において、永年にわたり教鞭をおとりいただきました山田知子先生に、尋源館にお越しいただき、お話を伺いました。

—先生は学生時代にはどのような学問を専攻されたのですか。

わたしが通っていたのは奈良女子大学の家政学部健康学科というところ。専攻は体育史と体育原理でした。たとえば「健康」ということについて言えば、どういう状態が本当に「健やか」ということなのか。あるいは、「動く」ということはいったいどういうことなのか、「動く」ことが、自分というシステムの

中でどんな影響をおよぼすのか。わたしの関心は、そういう問題をとことん突きつめて考えていくところがありました。

—卒業論文はどのような題目で書きましたか。

卒業論文ではレクリエーションについてまとめました。たしか「農村婦人のレクリエーション活動について」という題目だったと思います。奈良県の農村に入り、実地調査を行いました。当時はレクリエーションということが世間で言われ始めたころでした。電化製品の普及などによってもたらされた暇な時間を、レクリエーション活動に使うという考え方ですね。しかし、農村の場合、暇な時間ができたからといって、それが必ずしもレクリエーションには結びつかない、という実情がありました。農村の女性にとつてレクリエーションとは何なのか、ということとを考えなおす良い機会になりましたね。

—大谷大学とのご縁といえますか、先生が本学と関わりを持つようになった経緯について、お聞かせください。

子どもの頃、家が近くでしたから、本学のグラウンドで盆踊りや六斎念仏などの行事が催されたときには、寄せてもらうことがありました。当時、グラウンドの周りは、今のようなフェンスではなく、白いバラで埋めつくされており、とても情緒がありましたね。また、袴に着物をきて手に扇子をもった応援団の人たちの練習されている姿も印象に残っています。

短期大学の幼児教育科が新設されて二、三年目の頃でしたか、本学の教員にならないかという誘いをうけました。家も近いことだし、良いご縁かなと思います。一九六九年からこちらへ寄せていただくことになり、体育の授業を担当することになりました。野上俊静先生が学長をしておられ、幼児教育科の主任は下村良之介先生でした。わたしはそれ以前に十年間ほど高校の教師を勤め、また他の大学の教員をしていました。しかし、本学に着任してまず感じたのは、本学には世間の一般の学校とは異なる特別な雰囲気があるということでした。当時、衣をまとい袈裟をかけて授業に出られる先生がた

くさんおられて、さすが宗教の大学だなあと感じしました。

—その頃の学生さんの気質や学習態度はいかがでしたか。

わたしが本学にきた頃、幼児教育科の学生さんは本場にすばらしかったですね。わたしの方こそ勉強させられました。たとえば、授業でプリントを与えると、それに応えて学生たちが新たなプリントをつくってどんどん持ってきてくれました。わたしはそれらのプリントを資料として、研究発表で使わせてもらったこともありました。あるいは、体育の授業でもちいる用具についても、学生たちは、さまざまに創意工夫して、いろんな使い道を発想したりしました。そんな発想力が豊かで、積極的な学生さんが多くいましたね。しかし、大谷大学の学生さんの気質も時代とともに変化していったようです。わたしが定年で退職する頃には、そういう学生さんは少なくなっていました。自主的に判断するのが苦手、教員が指示するまでなかなか動こうとしない学生さんが、だんだんと増えてきたように感じています。

大学の授業のなかに「総合科目」がありますね。本当はこの授業をとおして、学生さんの柔軟で総合的な判断力を養うことを意図した、たい

へん有意味な科目です。しかし、実際にはものごとの概念に縛られ、自由な発想ができない学生さんが多くなってきているように感じていました。そのため、体育の自由な授業もだんだんとやりにくくなっていきました。それは単に、学生さんの変化にわたしが付いてゆけなくなった、ということなのかも知れませんが。

—クラブの顧問は何をされたのですか。
本学に勤めはじめた年から定年で退職するまで、バレーボール部の顧問でした。本学に着任した最初の年だと思いますが、バレー部の顧問になって欲しいと頼みにきたので、引き受けました。バレー部の学生さんとの関わりで思い出すのは、わたしが大谷学会の研究発表会で発表したときのことですね。わたしの発表のときに、バレー部の学生さんたちがいちばん前の席にズラッと並んで、熱心に聴いてくれました。そして、発表が終わった途端にザーッと逃げるように会場を去ってゆきました。嬉しい思い出として残っています。

—先生は『相撲の民俗史』というご本を出版しておられますし、また、「相撲文化史」というご講義も担当されました。先生はなぜ相撲に関心を持たれるようになったのですか。

わたしが「相撲の民俗史」というようなテーマで研究を始めたのは、本学の教授でおられた五来重先生の導きによるものです。以前書いていた論文に五来先生が注目してください、「わたしの授業にでなさい」と勧めてくださいったのが始まりです。

五来先生のご講義を受けるうちにだんだんと相撲に興味を持つようになり、相撲の「土俵」とは「四股を踏む」ことにどんな意味があるのだろうかとか、相撲の行儀・儀礼の意味を考えるようになりました。最初は民俗学にはまったくの素人でしたが、先生の授業に欠かさず出席し、先生から「これも見ておきなさい、あれも読んでおきなさい」とご指導をいただきながら、勉強を進めるうちに、どうか自信を持ってやるようになりましたし、民俗学的なお仕事もさせていただけるようになりました。相撲については、これから「民俗相撲」の系譜をまとめてみたいと考えています。

—最後に、大学への願いや、学生にたいするメッセージなどございましたら、お聞かせください。

前にお話しましたように、この大学に勤めはじめた頃、衣をきて教壇に立つ先生方のお姿を見て、宗教の

大学だなあと感心したことがありました。わたしは大谷大学が、信念を貫きとおす宗教の大学であり続けて欲しいと願っています。

学生さんへのメッセージといえば、大学時代に何でもいいから、自分にとっていちばん大事なものを見つけたいと思います。そのためには、ただ悩んでなんかないで、ちょっとでも興味を持てるものがあつたら、どしどし挑戦してほしいし、無駄かもわからないけれど、思いきりエネルギーを費やしてみたいと思います。「これだ」と思えるものにつきと出会うことが出来ると思いますよ。

忘れられない一言

大谷大学バレーボール部もお陰さまで今年創部三十八周年を迎えます。その誕生のきっかけを作ってくれたのが山田先生です。入学当初「何としてもバレー部をつくりたい」という一心から先生にご相談したところ「やりなさいよ」と力強いお言葉をいただきました。その

山田知子先生へのコメント



てらかわ まさのぶ
1973年3月卒業
文学部真宗学科

ひと言に後押しされ、多くの仲間の賛同と先輩諸氏の協力をいただいて創設されたのがいまのバレー部です。私を始め、たくさんのOB・OGにとって、バレーを通じて得た貴重な経験は大学生活での良き思い出となっていることでしょうか。また、先生には創部当初から近年まで、長い間顧問をお引き受けいただきました。今日までバレー部を守り育ててくださった先生は、いわばバレー部にとって育ての親といえます。改めて、心より御礼申しあげるとともに、今後の先生の益々のご活躍とご健康を念じあげます。

(社会福祉法人 徳風会) 寺川正順

〔略歴〕	
一九三二年	京都市に生まれる
一九五五年	奈良女子大学家政学部健康学科卒業
一九六五年	帝塚山短期大学専任講師
一九六九年	大谷大学専任講師
一九七四年	大谷大学助教授
一九八五年	大谷大学教授
一九九八年	大谷大学退職
現在	大谷大学名誉教授
〔著書〕	
『相撲の民俗史』	
〔論文〕	
「きたえる」	
「我が国における相撲の発生に関する研究」	
「相撲と民俗」	
「稲荷信仰と古墳」	
「鳳来寺と三河・尾張の薬師信仰」	
「土俵まつりと修験道」	



本部報告



二〇〇八年度同窓会総会開催（報告）

去る五月十五日（木）午後一時三十分より、大谷大学博綜館第一会議室において、本年度総会が開催されました。

議長に札幌支部長・曾我皆達氏を選出。各議案について活発な審議をいただき、それぞれ承認を得ました。一、二〇〇七年度事業報告及び決算

報告（左記「収支決算書」参照）
一、役員を選出について

▼このたび、一身上の都合により辞意を表明されていた本田昭英理事の後任理事、並びに大谷大学の当局交替に伴う常務理事の欠員補充を行い、次のとおり決定しました。

2008年度 大谷大学同窓会本部収支予算書

【収入の部】 (単位:円)

科目	予算額
1.前年度繰越金	4,361,642
2.会費	32,430,000
会費(1)	2,700,000
会費(2)	29,730,000
3.入会金	4,955,000
4.出版物等売上金	100,000
5.雑収入	1,500,358
合計	43,347,000

会費(1):1990年度以前卒業者の終身会費・通常会費
会費(2):2008年度卒業者の終身会費

【支出の部】 (単位:円)

科目	予算額
1.事業費	15,300,000
本部事業費	3,900,000
支部事業助成費	5,500,000
同期会・OB会等開催助成費	1,000,000
学生会助成費	500,000
新入会員歓迎費	4,400,000
2.刊行費	5,159,000
無盡燈刊行費	4,360,000
印刷製本費	799,000
3.事務費	6,110,000
本部事務局費	100,000
活動費	480,000
通信費	5,530,000
4.旅費	8,733,000
5.会議費	1,720,000
6.委託費	2,300,000
7.雑費	525,000
8.同窓会基金への繰入支出	0
9.出版事業積立金への繰入支出	0
10.同窓会活性化準備金	2,000,000
11.予備費	1,000,000
12.次年度繰越金	500,000
合計	43,347,000

2007年度 大谷大学同窓会本部収支決算書

【収入の部】 (単位:円)

科目	決算額
1.前年度繰越金	7,380,814
2.会費	31,356,000
会費(1)	2,676,000
会費(2)	28,680,000
3.入会金	4,780,000
4.出版物等売上金	342,300
5.雑収入	1,267,944
合計	45,127,058

会費(1):1990年度以前卒業者の終身会費・通常会費
会費(2):2007年度卒業者の終身会費

【支出の部】 (単位:円)

科目	決算額
1.事業費	14,948,548
本部事業費	3,730,863
支部事業助成費	5,415,760
同期会・OB会等開催助成費	550,000
学生会助成費	500,000
新入会員歓迎費	4,751,925
2.刊行費	4,921,117
無盡燈刊行費	4,369,019
印刷製本費	552,098
3.事務費	5,796,062
本部事務局費	35,361
活動費	474,000
通信費	5,286,701
4.旅費	8,656,960
5.会議費	1,590,293
6.委託費	2,138,804
7.雑費	453,003
8.同窓会基金への繰入支出	385,411
9.出版事業積立金への繰入支出	11,127
10.同窓会活性化準備金	1,640,491
11.予備費	223,600
12.次年度繰越金	4,361,642
合計	45,127,058

- 【退任】
理事 本田 昭英
常務理事（学内） 草野 顕之
（前学監・文学部長） 佐賀枝夏文
（前学生部長） 小谷信千代
（大学院文学研究科長）
- 【就任】
理事 大音 祖瑛
常務理事（学内） 大内 文雄
（学監・文学部長） 木越 康
（学生部長） 佐賀枝夏文
- 一、同窓会活動企画推進委員会に関する件
▼総会では、等岳兼昭部会長、一楽真常務理事（学内担当）から第一部会活動の報告がなされた後、「第十三回ホームカミングデー開催要項」等が提案され、承認されました。第二部会は、二階堂行邦部会長並びに

NPO法人「尋源舎」に賛助を!

同窓会が設立母体となって運営する、NPO法人「尋源舎」が一步ずつ歩み始めました。同窓会総会では、尋源舎発足の意義を確認するとともに、その事業の発展に向けて一致協力し、支えて行くことが了解されました。昨年は同窓会支部との共催により、全国数地区で「仏教公開セミナー」を開催。また、大谷大学が市民に開放する生涯学習講座の中から、「開放セミナー」開講経費の支援等を行いました。今後も大谷大学・同窓会と協働して、各種事業展開を図って参ります。お一人でも多くの同窓に賛同いただき、賛助会員としてご支援賜りますようお願いいたします。（賛助会費・年会費三、〇〇〇円）



織田顕祐常務理事（学内担当）から第二部会が主に取り組んだ、NPO法人「尋源舎」の活動報告と今年度の事業計画の報告・説明がなされ、同窓会員に対する賛助会員への加入要請がなされた。一、二〇〇八年度事業計画及び収支予算（上記「収支予算書」参照）

第十三回 同窓会ホームカミングデー案内

恒例の「ホームカミングデー」を、学園祭（紫明祭）期間中の土曜日に開催します。

第I部は、テーマ「谷大Walker 2008」と題して、各種のイベントを用意しています。

懐かしい「恩師・旧友との再会」、「学園祭模擬店参加」、学内を散策するイベント「大学見学ツアー・学内散策」や、全国各地の支部・役員から提供いただいた「お酒」「菓子」「農作物」「民芸品」が当たる盛り沢山の企画があります。また、お子様用のプレイルーム（簡単な遊具あり）も用意しています。

第II部は、NHK上方演芸ホールで、なにわ花形五人衆のメンバーとして大喜利を務められた、桂文鹿（大谷大学卒業生）氏を招いて、落



恩師・旧友との再会

語と歓談の夕べの「懇親会」を開催します。

また、この「ホームカミングデー」を、同期会等の集合場所として活用いただき、ゼミ・クラスや学寮・クラブ等のお仲間をお誘い合わせのうえ、母校大谷大学に多数お越しください。

【二〇〇八年十一月八日（土）】

【第I部】谷大Walker 2008
〈会費無料〉

▼博綜館・学内一円

・十三時～十六時
恩師・旧友との再会

大学見学ツアー・学内散策
【第II部】懇親会

〈会費五、〇〇〇円〉

▼京都ロイヤルホテル&スパ
・十七時三十分～十九時三十分
桂文鹿氏の落語と懇親会



桂文鹿氏の落語

以上

◎詳細は本会報に同封しております
案内状をご覧ください。

大谷大学卒業生が『MAHĀPAJĀPA TI: the First Bhikkhuni』を出版

大谷大学大学院博士後期課程を二〇〇三年度に修了されたダシユ・シヨバ・ラニ（Dash Shobha Rani）さんが、五月十六日（金）に『MAHĀ PAJĀPA TI: the First Bhikkhuni』をBlue Lotus Booksより出版されました。

シヨバさんは現在、真宗総合研究所の特別研究員として西蔵文献研究班に所属して「女性と仏教」及び「インドの貝葉写本」の研究をされています。

本書の題名『MAHĀPAJĀPATI: the First Bhikkhuni』とは「最初の比丘尼マハーパジャーパティ」という意味で、お釈迦様の叔母であり養母でもあったマハーパジャーパティ・ゴータミー（Mahapajapati Gotami）の生涯を初めて一冊の書にまとめ紹介しようとする著書です。パリ語文獻、サンスクリット語文獻及び漢訳仏典を用



い、最初の比丘尼であったこのマハーパジャーパティを理想の母、良き妻、信心深い在家信者及び敬虔な比丘尼という四つの視点から考察しています。

支部長・事務局交代・就任のご紹介

ありがとうございます
よろしくおねがいいたします

〈北の国支部長〉

近藤 義信
（前支部長 藤井亮一）

〈尾張学友会支部長〉

神戸 和麿
（前理事・前支部長 成瀬賢也）

〈飛騨支部長〉

内記 浄
（前支部長 小原正憲）

〈丹但支部長〉

廣瀬 德行
（前支部長 原田祐章）

〈尾張学友会支部事務局〉

一柳 淳徳
（前事務局 佐久間順敬）

〈金沢支部事務局〉

坂本 学
（就任）



卒業生からウッドチェアを寄贈いただきました。
（'99 短・文化学科 篠田宏樹氏）

大谷大学同窓会海外研修 第13弾

インド仏跡巡拝とヒマラヤ眺望の旅

会員相互の親睦・交流をはかり、校友の輪を一層広げていただくため、本会企画海外研修の旅を実施いたします。このたび、同窓会会長 藤島建樹名誉教授を団長として、ブッダ釈尊の足跡と白き神々の座ヒマラヤを訪ねる旅を企画いたしました。

会員をはじめ有縁の方々のご参加をお待ちいたしておりますので、お誘い合わせのうえご参加くださいますようお願いいたします。

- ◆旅行期間 2009年1月22日(木)～1月31日(土)
- ◆募集人員 20名(最少催行人員15名)
- ◆旅行費用 377,000円 燃油特別付加運賃その他の経費込み
(旅行基本代金308,000円 その他経費69,000円)
- ◆申込締切日 11月28日(金)
- ◆参加資格 同窓会員とご家族等
- ◆申込方法 旅行会社へパンフレットをご請求のうえお申込みください。
定員を超えた場合は、申し込み順とさせていただきます。



お問い合わせ先・取扱旅行代理店

アショカツアーズ(株)ビーエス観光 TEL 06-6444-2225

〒530-0005 大阪市北区中之島3-6-32 ダイビル1階 受付時間 9:30～18:00(土・日・祝日休)

FAX 06-6444-2230 E-MAIL osaka@ashoka.co.jp 担当 道家(ドウケ)/藤本



■インド仏跡巡拝とヒマラヤ眺望の旅 日程

月日	スケジュール [記号: ✈=飛行機 車=専用車 ㊚=列車 ㊛=世界遺産]	宿泊地	食事
① 2009年 1月22日(木)	午前9時45分 関西国際空港へ集合 関西空港(11:45発予定)=✈[タイ航空]=バンコク(乗継ぎ)=✈[タイ航空]=コルカタ(21:05着予定)	コルカタ	機内 機内
② 1月23日(金)	コルカタ市内 見学【インド博物館 マザーテレサの家】 コルカタ(16:45発予定)=㊚[ラジダニ急行]=ガヤ(22:19着予定)=車[約20km/約40分]=ブダガヤ	ブダガヤ 2連泊	朝食 昼食 夕食
③ 1月24日(土)	ブダガヤ(8時発予定)=車[約80km/約2.5時間]=ラジギール ラジギール(王舎城) 見学【霊鷲山 竹林精舎 ビンビサーラ王の牢獄跡】 ナーランダ大学跡 見学 ラジギール(16時発予定)=車[約80km/約2.5時間]=ブダガヤ		
④ 1月25日(日)	釈尊成道の地 布ダガヤ ㊛見学【金剛宝座 大菩提寺 スジャータストウバ 尼連禪河】 ブダガヤ(13時発予定)=車[約15km/約30分]=ガヤ(14:30発予定)=㊚[マハボディ急行]=ムガルサライ(17:40着予定)=車[約20km/約1時間]=ベナレス	ベナレス	朝食 昼食 夕食
⑤ 1月26日(月)	聖なるガンジス河 見学【ヒンドゥー教徒による早朝の沐浴風景】 初転法輪の地 サルナート 見学【ダメーク大塔 ムーラガンダクティ寺院 迎仏塔 サルナート博物館】 ベナレス(12時発予定)=車[約270km/約7時間]=クシナガラ	クシナガラ	朝食 昼食 夕食
⑥ 1月27日(火)	釈尊涅槃の地 クシナガラ 見学【涅槃堂 荼毘塚】 クシナガラ(13時発予定)=車[約155km/約4時間]=インド・ネパール国境[出入国手続/約40分]=車[約25km/約40分]=ルンビニ	ルンビニ	朝食 昼食 夕食
⑦ 1月28日(水)	誕生の地 ルンビニ ㊛見学【マヤ堂 アショカ王柱 産湯の池】 ルンビニ(12時発予定)=車[約25km/約30分]=パイラワ=✈[ブッダ・エア]=カトマンズ	カトマンズ 2連泊	朝食 昼食 夕食
⑧ 1月29日(木)	午前、自由行動または オプショナルツアー(★現地申込み) ★①ヒマラヤ遊覧飛行別途200USDル ②ナガルコットの丘からのヒマラヤ眺望別途30USDル 午後、カトマンズ渓谷 ㊛見学【古都バタン 目玉寺】		
⑨ 1月30日(金)	カトマンズ(13:50発予定)=✈[タイ航空]=バンコク(乗継ぎ)=✈[タイ航空]=	機中	朝食 機内 機内
⑩ 1月31日(土)	=関西空港(06:10着予定)		機内

※ 現行のスケジュールです。現地事情により日程・交通機関・宿泊施設を変更させていただく場合があります。

※ 利用予定のホテル コルカタ:ヒンダスタンインターナショナル ブダガヤ:ロイヤルレジデンス ベナレス:クラークス
クシナガラ:ロイヤルレジデンス ルンビニ:法華ホテル カトマンズ:アンナプルナホテル

母校だより

課程博士の学位を授与

大谷大学ではこのたび、博士後期課程修了者七名に、博士（文学）の学位を授与しました。学位取得者は、義盛幸規（真宗学）、富岡量秀（真宗学）、大野僚（哲学）、富積厚文（哲学）、伊久留睦（仏教文化）、清水智樹（仏教文化）、井内真帆（国際文化）の各氏です。



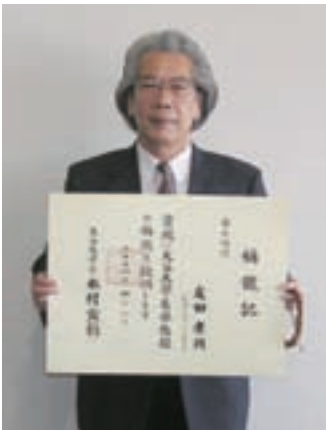
学位を授与された方々

名誉教授の称号おくられる

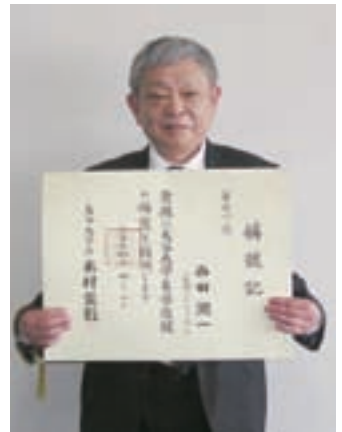
このたび、大谷大学名誉教授称号授与規程に基づき、大谷大学の教育上また学術上、特に功績のあった先生におくられる名誉教授の称号が、佐々木令信先生（日本仏教史）、白館戒雲先生（チベット学）、友田孝興先生（ドイツ文学）、西田潤一先生（物理地質学）におくられました。授与式は去る四月一日（火）に学長室において行われました。



白館戒雲名誉教授



友田孝興名誉教授



西田潤一名誉教授

大内文雄教授・延塚知道教授が博士（文学）の学位を取得

大谷大学の大内文雄教授と延塚知道教授が学位論文を提出され、博士（文学）の学位を取得されました。授与式は、三月二十六日（水）と五月七日（水）に、それぞれ大谷大学にて行われました。

◎大内文雄教授

「中國中世佛敎史研究―佛敎史編纂と佛敎の地方的展開―」

「宗祖誕生会」厳修

宗祖親鸞聖人誕生会が五月三十一日（土）午前十時から、講堂において、来賓、教職員、在学生、一般来聴者約四五〇人の参加を得て厳修されました。

勤行に引き続き、学長挨拶、記念講演が行われました。

今年度の記念講演は、講師に山形大学人文学部人間文化学科教授（東京大学文学博士）の松尾剛次氏を迎

◎延塚知道教授

「『浄土論註』の思想究明―親鸞の視点から―」



大内文雄教授（3月26日）



延塚知道教授（5月7日）



松尾剛次氏

え、「親鸞聖人と叡尊―戒律をめぐる二つのベクトル―」の講題で講演をいただきました。

母校の動き (2008年4月～2008年8月)

- 4/ 1(火)【学年始・宗祖誕生会】
 4/ 1(火)～ 4/26(土)【博物館 2008年度春季企画展】
 大谷大学のあゆみ「清沢満之と真宗大学」
- 4/ 3(木)【入学式】
 4/ 5(土)【若葉祭】
 4/ 8(火)【釈尊降誕日】
 前期授業開始】
- 4/24(木)【宗祖御命日勤行・講話】
 「フロア理論からみたスポーツの楽しさ」 中桐 伸吾 大谷大学教授
- 5/15(木)【同窓会総会】
 5/20(火)～ 8/ 4(月)【博物館 2008年度夏季企画展】
 仏教の歴史とアジアの文化「中国・韓国の文物と典籍」
- 5/21(水)【文化学科・新入生歓迎講演会】
 「～『発想』は出発。『創作』は過程。『表現』は結果。～」
 講師 前原 謙一 株式会社 フロントフィールド 代表取締役
 共演 田中 宗利 劇団ひまわり
 共演 近藤 貴久 劇団ガムンツ
- 5/23(金)【大谷学会春季公開講演会】
 「浄土の眷属―『王舎城の悲劇』に照らし返されるもの―」
 安富 信哉 大谷大学教授
 「チンパンジーから見た世界」 松沢 哲郎 京都大学霊長類研究所長
- 5/28(水)【宗祖御命日勤行・講話】
 「私のスポーツ(身体活動)への信頼履歴」
 中森 一郎 大谷大学教授
- 5/31(土)【宗祖誕生会】
 「親鸞聖人と叡尊一戒律をめぐる二つのベクトル」
 松尾 剛次 山形大学教授
- 6/11(水)【第1回「人権問題を共に考えよう」全学学習会】
 「それって「愛」なの？」(若者のためのDV予防セミナー)
 山口のり子 awareアウェア代表
- 6/14(土)【東国大・大谷大博物館交流協定締結記念講演会】
 「高麗仏画に見る韓国と日本」
 鄭于澤 韓国 東国大大学院教授・博物館長
- 6/15(日)【教育後援会奈良地区父母兄弟懇談会(奈良市)】
 6/21(土)【オープンキャンパス】
 6/25(水)【教育後援会評議員会】
 6/27(金)【宗祖御命日勤行・講話】
 「ルソーの「歩み」―旅・散歩・自然―」
 並木 治 大谷大学教授
- 7/ 1(火)【文藝学会公開講演会】
 「四季最後の詩人―杉山平一― 國中 治 大谷大学教授
 「邵雍の「洗竹」詩をめぐる」 森 博行 大阪大谷大学教授
- 7/ 9(水)【「大拙忌」記念公開講演会】
 「空のイメージ化と無限の因果―浄土の荘嚴をめぐる―」
 長谷 正當 前大谷大学宗教学会長
- 7/11(金)【教育後援会九州地区父母兄弟懇談会(熊本市)】
 7/12(土)【教育後援会九州地区父母兄弟懇談会(福岡市)】
 【同窓会地区九州支部長会】
- 7/15(火)～ 7/29(火)【安居開講】
 本講「顕浄土真仏土文類」―迷失せる恩徳―
 鍵主 良敬 大谷大学名誉教授
 次講「宗名往復録」註解 木場 明志 大谷大学教授
- 7/21(祝)【オープンキャンパス】
 7/23(水)～ 7/25(金)【暁天講座】
 23(水)「聞薫習について」 小谷信千代 大谷大学教授
 24(木)「浄土真宗の「真」の意味をたずねて」
 木場 明志 大谷大学教授
- 25(金)「法蔵菩薩ののり」 鍵主 良敬 大谷大学名誉教授
- 7/26(土)【西洋文学研究会年次大会】
 「自然とヴィジョンの詩学―ワーズワス、コールリッジ、エリオット―」
 宮川 清司 大谷大学准教授
 「『ハムレット』の政治化―大岡昇平『ハムレット日記』について」
 声津かおり 大谷大学准教授
 「都市文学と郷土文学の問―J. ミュルベルガーの場合―」
 佐々木茂人 大谷大学任期制助教
 「ベルギーの言語教育について」
 西尾由利子 大谷大学非常勤講師
- 【日本史の会大会・総会】
 研究報告 加藤 基樹 大谷大学任期制助教
 東館 紹見 大谷大学准教授
 前田 一郎 立命館大学非常勤講師
 佐々木悦也 高月町立観音の里歴史民俗資料館学芸員
- 7/28(月)【宗祖御命日勤行】
 8/ 2(土)・3(日)【オープンキャンパスin kyoto】
 8/ 2(土)～ 8/ 4(月)【オープンキャンパス】
 8/ 2(土)～ 9/17(水)【夏期休暇】
 8/ 5(火)～ 8/ 7(木)【公募制推薦入試小論文対策講座】

大谷学会春季公開講演会を開催

去る五月二十三日(金)、大谷学会春季公開講演会がおよそ五〇〇名の聴衆参加のもと開催されました。今年度の講師・講演題目は以下の通りです。

◎大谷大学教授 安富信哉氏

「浄土の眷属―『王舎城の悲劇』に照らし返されるもの―」

◎京都大学霊長類研究所長 松沢哲郎氏

「チンパンジーから見た世界」

『観無量寿経』には、マガダ国王

子阿闍世が王

舎城において

父を殺そうと

する、家庭内

の殺人という

絶望的な状況

のなかで、仏

陀釈尊との出

会いによって妃草提希夫人が救われ

ることが物語られています。この物

語は二千年以上も前の出来事です。

安富教授は、人間の抱えもつ問題性を現代に通ずるものがあるとして、

この悲劇を手がかりに、釈尊の教え

の大乗性や浄土教が現代に生きる私

たちに示唆するところをわかりやす

くご講義くださいました。

比較認知科学をご専門とされる松

沢先生は、チンパンジー・アイとの



安富信哉氏

「アイ・プロジェクト」のご研究で高名な先生です。人間の身体が進化の産物であるのと同様に、人間の心



松沢哲郎氏

も進化の産物だと説いておられます。しかし、心や脳は化石には残りません。そこで、五百万年前に共通の祖先をもつチンパンジーと人間を比較することで、人間の心の進化を想像することができると述べておられます。ご講演の冒頭に、ゲノム(遺伝情報)の解析が進んだ二十一世紀において、ヒトとチンパンジーとのゲノムの違いは一・二三%に過ぎないということがわかったとご紹介がありました。比較認知科学のご研究を通して、人間の心や親子関係、文化、環境の問題などに論及され、特に、命あるものは皆つながっているということが印象に残るご講演でした。

田辺繁治教授が「第三回日本文化人類学会賞」を受賞

大谷大学の田辺繁治教授が第三回日本文化人類学会賞を受賞されました。今回の受賞の理由は、長年にわたる北タイ農村部と都市部における

事務組織改編のお知らせ

6月1日より事務組織が改編されました。

同窓会のみなさんに関係する事務窓口では、今までの「総務課」「財務課」に「校友センター」が加わり、「総務部」となりました。

学生に関係する事務窓口では、「教務部」が「教務課」に、「学生課」が「学生支援課」に、「進路就職センター」が「キャリアセンター」に名称変更となり、この3部署を統合して「学生支援部」となりました。

その他、「企画室」は「企画課」と名称変更になり、「企画課」と「入学センター」が「企画・入試部」に統合されました。なお、「教育研究支援課」「図書・博物館課」は、そのまま「教育研究支援部」となります。

但し、業務内容、窓口の場所につきましては変更ありません

改編後の事務体制図



「コミユニティを想像する—人類学的省察」が行われました。

授賞式は六月一日(日)に京都大学で開催された日本文化人類学会第四十二回研究大会において行われました。授賞式の後、受賞記念講演

ファイールドワークにもとづく宗教、儀礼、HIV自助グループの実証的研究による貢献はもとより、ハビトゥス・実践コミュニティ・暗黙知といった非言語的な知と技法にかかわる理論的視角をとりこみながら、国家やそれを超えるシステムとの動的な交渉過程としての現代人の生き方そのものを対象化した、日常実践についての研究が高く評価されたためです。

授賞式は六月一日(日)に京都大学で開催された日本文化人類学会第四十二回研究大会において行われました。授賞式の後、受賞記念講演

中国からの留学生であり、大谷大

大谷大学博士後期課程・金偉さん『万葉集』を出版



授賞式 (写真提供: 日本文化人類学会)

大谷大学博物館 展覧会のご案内

開館5周年記念 特別展

「聖徳太子伝の世界—えがかれた和国の教主—」

本展覧会では、聖徳太子信仰に大きな影響を与えた『聖徳太子伝』の形成過程と、その絵画化といふべき『聖徳太子伝』によってその信仰が幅広い階層に展開していったことを紹介します。

国宝・重要文化財、多数出品!

聖徳太子信仰の魅力があふれる



南無仏太子像
伝言中・奈良

聖徳太子伝
現存中・富山

2008年10月10日(金)~11月29日(土)

冬季企画展 京都を学ぶ

「みやこの姿」

新収蔵品「洛中洛外図屏風」を中心に、あじの京都の姿を紹介します。



洛中洛外図屏風

2008年12月16日(火)~2009年2月14日(土)

■開館時間 午前10時~午後5時(入館は30分前まで)

ただし、特別展期間中の休館日に限り、午後7時まで開館

■休館日 日・月曜日(大学が定める休日は休館します)

■料金 (同窓会員は無料)

企画展 200円(一般、大学生)、100円(小中高生)

特別展 500円(一般、大学生)、200円(小中高生)

大谷大学博物館 〒603-8143 京都市北区小山上段町 TEL075-411-8483 http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/
(京都市地下鉄「北大路」下車すぐ)

中国からの留学生であり、大谷大

大谷大学博士後期課程・金偉さん『万葉集』を出版

学博士後期課程第一学年に在学中の金偉 (Kimura) さんが、このたび、日本古典文学作品のひとつである『万葉集』の中国語訳を行い、中国の人民文学出版社から『万葉集』(上下二巻 全一、三八一頁)として出版されました。

金さんは、一九九二年に大谷大学に留学して以来、日本の古典文学を中国語訳する研究に携わり、二〇〇六年には世界初となる中国語訳『昔物語集』を出版されており、その後も研究を進め、『古今和歌集』の中国語訳も完成させ、現在では『新古今和歌集』の翻訳作業を行っています。

今回の『万葉集』の出版について



金さんは「中国人に日本文学の魅力に気づいてもらい、もっと日本と中国の相互理解と友好につなげていきたい」と話されています。

大谷大学の井野口雅子さん

(国際文化学科第四学年)

は、『Drum Corps International (以下DCI) ワールド・チャンピオンシップス』というマーチングバンド世界大会への出場のため、二〇〇四年よりトランペット奏者として日米両国を本拠地とするチームに所属していました。しかし、昨年はアメリカのみを本拠地とするマーチングバンドCarolina Crown (サウス・カロライナ州シャーロット)のオーディションに合格し、拠点をアメリカに移して活動していました。そして、二〇〇七年八月十一日にカリフォルニア州で開催された世界大会において団体で六位入賞、個人では最も素晴らしい演技力を持つ人に贈られる「Most Outstanding Visual」という賞を受賞しました。

マーチングバンドは、もともとアメリカの大学等のフットボールの試



決勝戦でのパフォーマンス
(写真提供: Jolesh photo graphy)

合のハーフタイムに、味方のチームを応援しながら観客を楽しませることで相手チームと競いあっています。それが近年ではマーチングバンド競技として独立し、新しい音楽とスポーツの融合競技として注目されています。その最大の大会となったのが『DCIワールド・チャンピオンシップス』です。日本にはまだあまり浸透していませんが、メディアを通して徐々に注目されつつあるようです。

『DCIワールド・チャンピオンシップス』の決勝(上位十二団体)

大谷大学学生がアメリカのマーチングバンドで活躍

に進むまでには、三ヶ月間アメリカ各州をツアーで回りながら本番を重ね、その後にある予選・準決勝で勝ち抜かなければなりません。そのため、井野口さんはアメリカで毎日学校のジムに寝泊りしながらトレーニングを続け、チームの仲間である約一五〇人のアメリカ人と生活を共にしました。

大会に出場できる年齢制限が二十歳までのため、井野口さんは最後の年である二〇〇七年に大学を一年間休学し、アメリカで活動を続けました。言葉や文化の壁を乗り越え、

今回の成績を修められた井野口さんは次のように話してくれました。

『今回は私にとって四度目の世界大会出場でしたが、アメリカを本拠地とするチームに所属するのは初めてのことでした。もちろんメンバーやスタッフはアメリカ人ばかり。その上ほとんどが男性で、滞在期間は例年の何倍も長いのです。その中で、以前所属していたチームとのレベルの差を目の当たりにし、不安と孤独でいっぱいでした。』

渡米して最初の二週間、「見慣れない日本人」という立場からスタッ

フやメンバーには相手にされず、目も合わせてもらえず、悔しい毎日が続きました。しかし、「私が日本人で、女の子だから」なんてただの言い訳だと思いました。認められないのは、こんなくだらない理由ではないのです。文化や人種が違って、音楽が大好きでマーチングに夢中だということや音楽ができる幸せも喜びも、悔しさも悲しみも、感じる心は同じでした。どんな想いでアメリカに来たのか、自分をアピールすることができなかつた二週間で寝袋の中で一晩中悔やみました。

それからは「アメリカンには負けん。男にも負けん。誰にも負けん」と歯を食いしばりながら、ライバル心むき出しで練習しました。その反面、何をするにもいつでもメンバーたちと過ごし、たくさんのスタッフと騒ぎ、くだらないことでケンカもして、お互いを理解し合いました。汚い英語や卑劣な言葉をたくさん教わりました。仲間を想う心と家族を敬う心も教わりました。

たった一度だけ、本番中に無意識に涙が出たことがあります。頭の中と体は勝手に動き勝手に演奏しているのに、音と心が、今まで感じたことのないくらいに人と繋がっているのに気づいた時でした。諦めなくて良かった。頑張つて良かった。この世に文化や人種を超える音楽があつて本当に良かった。順位や個人賞を獲つたなんてどうでもいいです。この経験が私の一番大切なものになりました。』



閉会式後、スタジアムの外にて仲間と井野口さん(前右)

海外との交流について

◎首都師範大学訪問団来日

四月四日（金）、学術交流協定校の首都師範大学（中国北京）から劉暁天国際文化学院院长ら二名、首都師範大学所属の大学教師訓練機関である北京市高等学校教師資培訓練センターから李有増主任ら二名が来日されました。首都師範大学とは、一九九七年に学術交流協定を締結以来、教員や学生の交流を継続的に実施しています。今回の訪問では、今後の学生交流について協議が行われました。

◎エトヴェシ・ロラント大学訪問団来学

四月十五日（火）、昨年十月に学術交流協定を締結したエトヴェシ・ロラント大学（ハンガリー・ブタペスト）のフデツ・フェレンツ学長、ハマル・イムレ博士、山地征典博士の三名が大谷大学を敬訪問されま



フデツ・フェレンツ学長（右）と握手を交わす木村学長

した。ロラント大学は仏教研究において大谷大学との交流に期待を寄せており、三名の先生方は、真宗総合研究所や図書館にある資料を手に取りながら、時間をかけて響流館内を見学されました。木村学長との会談では、欧州連合（EU）と日本政府が共同で実施する学生交流プロジェクト（Industrialised Countries Instrument Education Cooperation Programme）や学生の交流等について協議が行われました。今後、本格的な交流が始まれば、両校の仏教研究の成果が相互の学生や研究者に還元されていくことと思われます。

◎普陀山仏教協会訪問団来学

四月二十二日（火）と二十三日（水）、かつて大谷大学で外国人留学研究生として学ばれた門肅法師をはじめとする中国普陀山仏教協会の訪問団九名が大谷大学と東本願寺を訪問されました。普陀山仏教協会は、かねてより教育学院（佛学院）の設立事業を進めておられました。今般、教育学院の建物が完成し、大学における仏教教育カリキュラムや単位認定方法等を視察するために、来学されました。尋源講堂で勤行をされた後、総合研究室を見学し、日本仏教について熱心に質問されました。東本願寺を参拝された際には、大谷大

学の理事長が中国語で挨拶をし、和やかな雰囲気での歓談となりました。今後、教育学院において仏教学の学問的研究を進めるため、大谷大学教員の派遣などを希望されています。



知進守退の碑の前での記念撮影

◎木村学長が韓国を訪問

五月十六日（金）～二十日（火）に木村学長、宮崎入学センター長、平野博物館主事が韓国を訪問しました。昨年、東國大學校博物館と締結した学術交流協定に基づき、鄭于澤博物館長を大谷大学へ招聘することについて協議を行いました。また、大谷大学韓国同窓会会長の金大植氏（一九九九年博士學位取得）をはじめとする韓国で活躍する卒業生との面談も行いました。その後、二〇〇〇年度に大谷大学で博士号を取得された陰富炯（ウンブヒョン）法師を訪問しました。陰富炯法師は現在、東鶴寺僧伽大學教授として活躍して

おられます。昨年ソウルで開催した韓国帰国留学生同窓会の際に、韓国の仏教系大学をぜひ視察してほしいとの招待をうけ、今回の訪問が実現しました。



鄭于澤博物館長（左）と握手を交わす宮崎入学センター長

◎博物館講演会を開催

去る六月十四日（土）、昨年十月の交流協定を記念して、東國大學校博物館長の鄭于澤氏による講演会「高麗仏画に見る韓国と日本」を開催しました。

高麗と日本の仏画を比較して、それぞれの作意の異なりを指摘しつつも、ひとくくりの東アジア文化として見ていきたいと話されました。



鄭于澤博物館長

人 事

学長再任

〔大谷大学長(第二十六代) 兼大谷大学短期大学部学長〕
教授 木村 宣彰
(任期は二〇〇八年三月三十一日迄)

二〇〇八年四月一日付

部局長の交代

〔学監兼文学部長〕大内 文雄
(前学監兼文学部長 草野 顕之)

〔大学院文学研究科長〕小谷信千代
(前大学院文学研究科長 ロバートF・ローズ)

〔短期大学部長〕一色 順心
(前短期大学部長 藤本 芳則)

〔学生部長〕木越 康
(前学生部長 佐賀枝夏文)

〔真宗総合学術センター長〕乾 源俊
(兼真宗総合研究所長
(前真宗総合学術センター長 兵藤 一夫)

〔入学センター長〕宮崎 健司
(前入学センター長 水島 見一)

二〇〇八年四月一日付(各通)
〔学監・事務局長〕長谷岡英信
(前学監・事務局長 藤坂 初裕)

二〇〇八年七月一日付

館長などの交代

〔図書館長〕ロバートF・ローズ
(前図書館長 大内 文雄)

〔人権センター長〕谷 眞理
(前人権センター長 藤嶽 明信)

〔博物館主事〕平野 寿則
(前博物館主事 宮崎 健司)

〔総合研究室主任〕宮下 晴輝
(前総合研究室主任 沙加戸 弘)

二〇〇八年四月一日付(各通)

退職・解任

*定年退職

〔教育職員〕

佐々木令信(教授・文学部)

白館 戒雲(教授・文学部)

友田 孝興(教授・文学部)

中川皓三郎(教授・短期大学部)

西田 潤一(教授・文学部)

宮川 清司(教授・文学部)

磯波 護(特別任用教授・文学部)

長谷 正當(特別任用教授・文学部)

*契約期間満了による退職

〔教育職員〕

皇 紀夫(特別任用教授・文学部)

新美 秀和(任期制講師・文学部)

稲垣 淳史(任期制助教)

小澤 千晶(任期制助教)

神崎 宣次(任期制助教)

斉藤 研(任期制助教)

清水 智樹(任期制助教)

中田英利子(任期制助教)

藤田 義孝(任期制助教)

〔事務系嘱託〕

草野 世理(教育研究支援部)

佐竹 由妃(教務部)

澤田あき子(学生支援部)

段 敦子(教育研究支援部)

前田 千尋(教育研究支援部)

松宮佐和子(教育研究支援部)

〔寮監〕

福島 重(貫練学寮)

吉田 環(自灯学寮)

〔学生相談員〕

西澤伸太郎

二〇〇八年三月三十一日付(各通)

*依願退職

〔事務職員〕

松浦 弘智(教育研究支援部)

森 亜紀子(教育研究支援部)

二〇〇八年六月三十日付

〔事務系嘱託〕

佐々木玲加(教育研究支援部)

二〇〇八年二月二十九日付

大伴 博子(教育研究支援部)

二〇〇八年七月三十一日付

〔寮監〕

一澤 美帆(自灯学寮)

二〇〇八年三月三十一日付

新規採用

〔教育職員〕

池田 佳和(教授・文学部)

加藤 丈雄(教授・文学部)

谷 眞理(教授・文学部)

脇中 洋(教授・文学部)

岩淵 信明(准教授・文学部)

鈴木 寿志(講師・文学部)

西村 美紀(講師・短期大学部)

宮川 清司(特別任用教授・文学部)

児玉 暁洋(客員教授)

皇 紀夫(客員教授)

磯波 護(客員教授)

青木 玲(任期制助教)

井内 真帆(任期制助教)

古谷 伸子(任期制助教)

堂蘭 淑子(任期制助教)

西尾 浩二(任期制助教)

藤井 政彦(任期制助教)

宮本 浩尊(任期制助教)

〔事務職員〕

鈴木 善幸(教務部)

寺本 真悠(学生支援部)

〔事務系嘱託〕

石浦みづえ(教育研究支援部)

木戸 千紘(教務部)

杉江かおり(教育研究支援部)

濱口 映子(教育研究支援部)

藤森 麻子(教育研究支援部)

長谷川綾子(学生支援部)

香月 拓(貫練学寮)

×田麻祐子(自灯学寮)

森 万里子(自灯学寮)

〔就職アドバイザー〕

佐藤 恵

二〇〇八年四月一日付(各通)

昇格

〔教授〕

浅見直一郎(文学部)

関口 敏美(文学部)

松川 節(文学部)

水島 見一(文学部)

山野 俊郎(短期大学部)

〔准教授〕

志藤 修史(文学部)

柴田みゆき(短期大学部)

東館 紹見(短期大学部)

古川 哲史(文学部)

二〇〇八年四月一日付(各通)

二〇〇八年度 学科主任一覧

〔文学部〕

真宗学 水島 見一

仏教学 ロバート

哲学 門脇 健

社会学 安井 喜行

歴史学 浅見直一郎

文学 村瀬 順子

国際文化学 並木 治

人文情報学 松川 節

〔短期大学部〕

仏教 山野 俊郎

文化学 番場 寛

幼児教育保育科 大城 邦義

◎六月一日以降については、事務組織

改編に伴う新しい組織名称にて表示

以上

二〇〇八年度
春季課外活動結果

【団体成績】

●卓球部 (男子)

- ・関西学生卓球連盟春季リーグ戦
- Ⅲ部Aブロック六位 一勝六敗
- Ⅳ部降格

●卓球部 (女子)

- ・関西学生卓球連盟春季リーグ戦
- Ⅲ部Bブロック二位 三勝二敗

●柔道部 (男子)

- ・京都学生柔道大会
- Ⅱ部一位 二勝一敗

●関西学生柔道優勝大会

- Ⅱ部三位 二勝一敗

●硬式野球部

- ・京滋大学野球連盟春季リーグ戦
- Ⅰ部リーグ三位 六勝六敗

●サッカー部

- ・関西学生サッカー選手権大会
- Ⅲ部トーナメント 二回戦敗退
- ・関西学生サッカーリーグ戦
- Ⅲ部リーグBブロック三位 七勝三敗

●剣道部 (男子)

- ・西日本学生剣道大会 一回戦敗退

●バスケットボール部 (男子)

- ・全関西学生バスケットボール選手権大会 一回戦敗退

- ・京都学生バスケットボール選手権大会 Bブロック予選リーグ敗退
- ・西日本学生バスケットボール選手権大会 一回戦敗退

●バスケットボール部 (女子)

- ・全関西女子学生バスケットボール選手権大会 一回戦敗退

●京都学生バスケットボール選手権大会

- ・Bブロック予選リーグ敗退
- ・西日本学生バスケットボール選手権大会 一回戦敗退

●ソフトテニス部 (男子)

- ・関西学生ソフトテニス春季リーグ戦 V部Cブロック四位 三敗

●ソフトテニス部 (女子)

- ・関西学生ソフトテニス春季リーグ戦 VI部Aブロック三位 一勝二敗

●バレーボール部 (男子)

- ・関西大学バレーボール連盟春季リーグ戦 VI部六位 二勝五敗

●バレーボール部 (女子)

- ・関西大学バレーボール連盟春季リーグ戦 VII部一位 七勝

●バトミントン部 (男子)

- ・京都学生バトミントンリーグ戦 III部一位 六勝一敗

●バトミントン部 (女子)

- ・関西学生バトミントン春季リーグ戦 VI部Aブロック二位 三勝一敗

●バトミントン部 (女子)

- ・京都学生バトミントンリーグ戦 I部六位 六敗

●関西学生バトミントン春季リーグ戦

- Ⅲ部六位 五敗

【個人成績】

●卓球部

〈関西学生卓球新人大会〉

【シングルス (男子)】

- ・第三位 近藤 琢爾

〈文学部哲学科 第四学年〉

●硬式野球部

〈京滋大学野球連盟春季リーグ戦〉

【打撃ベストテン】

- ・第三位 打率四割 藤川 圭市

〈文学部仏教学科 第三学年〉

●跆拳道部

〈W・A・T・A OPEN〉

テコンドー選手権大会

【女子一般 初級フェザー級】

- ・第三位 清水 麻友

〈文学部哲学科 第三学年〉

【男子一般 初級ウエルター級】

- ・第三位 吉田 広輝

〈文学部社会学科 第三学年〉

【男子一般 初級フェザー級】

- ・優勝 永峯 隼人

〈文学部社会学科 第二学年〉

教育振興資金(募金)について

大谷大学・大谷大学短期大学部では、教育研究環境の一層の充実を図るために「教育振興資金局」を設置し、募金活動を行っています。大谷大学・大谷大学短期大学部は学校法人として「特定公益増進法人」の認可を受けており、寄付金に対しては税法上の減免税措置が受けられます。

二〇〇八年二月一日から二〇〇八年六月三十日までの間で、

寄付をいただきました方々の芳名は、次のとおりです。ご支援・ご協力ありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

◆件数 二八件

◆寄付金総額 三、七九、四〇〇円

「教育振興資金寄付者(敬称略)」

- 天山 敬信 出雲路善公 小川 弘美
- 片山眞理子 上寺 和親 齊藤 淨文
- 佐藤 道代 瀧口 秀雄 竹井 信彦
- 龍山 了祐 難波 明則 西本 治夫
- 橋本 一哉 橋本 義介 福井 修
- 藤谷 浄 三村 祐平 三和 了
- 山口 健二 山根 和男
- 匿名(二名)
- NPO法人 尋源舎
- ㈱フラットエージェンシー
- 信光寺(竹内 彰) 信行寺(後藤了昭)
- 法栄寺(森口 勝) 真宗寺(森口 達)

大谷大学教員の出版物紹介

- ◎『親鸞讃歌』 寺川俊昭 著 東本願寺出版部 刊 (二〇〇八・二) 二五七頁
- ◎『日本中世の地域社会と一揆―公と宗教の中世共同体』 法蔵館 刊 (二〇〇八・二) 二二二頁
- ◎『多屋頼俊先生所蔵 祖師一言法談 影印・翻刻・解題』 文栄堂書店 刊 (二〇〇八・三) 一五三頁
- ◎『Imagining Communities in Thailand: Ethnographic Approaches』 田辺繁治 編 Mekong Press刊 (二〇〇八・一) 二二二頁
- ◎『饗宴／パイドン』 プラトン 著 朴一功 訳 京都大学学術出版会 刊 (二〇〇七・二) 四七八頁
- ◎『現代詩大事典』 安藤元雄・大岡信・中村稔 監修 國中治 分担執筆 三省堂 刊 (二〇〇八・二) 八二〇頁
- ◎『Chuncheon kap kan pokkhong chi-wayan: klum phu ti cheua et ai wi phak nuea khong thai (クワンティと統治性―北部タイにおけるHIV感染者グループ)』 田辺繁治 著 バンコク・シリントーン人類学センター 刊 (二〇〇八・三) 二二五頁
- ◎『光華叢書5 ブッダのことばから浄土真宗へ』 荒牧典俊 著 京都光華女子大学・真宗文化研究所 編 自照社 刊 (二〇〇八・三) 二〇一頁
- ◎『「真実委員会」という選択―紛争後社会の再生のために』 阿部利洋 著 岩波書店 刊 (二〇〇八・四) 二四〇頁
- ◎『「浄土論註」の思想究明―親鸞の視点から』 延塚知道 著 文栄堂書店 刊 (二〇〇八・五) 二四六頁
- ◎『歎異抄略註』 多屋頼俊 著 石橋義秀 監修 法蔵館 刊
- (二〇〇八・七) 一四七頁
- ◎『世界の歴史6―隋唐帝国と古代朝鮮』 磯波護 共著 中央公論新社 (二〇〇八・三) 五二一頁
- ◎『雨の言葉 ローゼ・アウスレンダー詩集』 ローゼ・アウスレンダー 著 加藤丈雄 訳 思潮社 刊 (二〇〇七・二) 一五六頁
- ◎『天翔ける祈りの舞・チベット歌舞劇 アチエ・ラモ三話』 三宅伸一郎 共訳 臨川書店 刊 (二〇〇八・三) 二八八頁
- ◎『旅ともてなしの文化論』 京都府立大学旅ともてなしの比較文化研究会 編 加藤丈雄 分担執筆 春風社 刊 (二〇〇八・三) 二七〇頁
- ◎『観海流の伝承とあゆみ』 山田謙夫 監修 観海流泗水会 編 中森一郎 分担執筆 伊勢新聞社 刊 (二〇〇八・三) 一八八頁
- ◎『ラオス農山村地域研究』 横山智・落合雪野 編 高井康弘・福田恵 分担執筆 めこん 刊 (二〇〇八・三) 四五三頁
- ◎『論集 モンスーンアジアの生態史』 地域と地球をつなぐ第1巻 生態の生態史 監修 河野泰之 編 高井康弘 分担執筆 弘文堂 刊 (二〇〇八・五) 二二七頁
- ◎『今、いのちがあなたを生きている』 名古屋教区 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌テーマ学習会 講演録 教区宗祖親鸞聖人750回御遠忌準備委員会 編 延塚知道 分担執筆 真宗大谷派名古屋教務所 刊 (二〇〇八・六) 一二五頁
- 『学内刊行物』
 - ◎『大谷大学教職支援センター研究紀要 第2号』 大谷大学教職支援センター 編・刊 (二〇〇八・三) 二五四頁
 - ◎『差別のない世界を求めて―大谷大学における人権問題学習の視座―』 大谷大学 編・刊 (二〇〇八・四) 一三四頁
 - ◎『人権センター叢書vol.6』 大谷大学人権センター 編・刊 (二〇〇八・五) 七一頁

水野有庸名誉教授を偲ぶ

大谷大学名誉教授・水野有庸先生は、三月十一日(火)、七十九歳でご逝去されました。先生は、十四年前の一九九四年三月にご退職され、四月に名誉教授となられ、一九九五年年度非常勤講師として出講されましたが、その後は大学に殆ど出て来られませんでした。しかし、まだまだお元気で、ご活躍してくださるものと考えていましたのに、突然のご逝去の悲報に接し、ただ驚き悲しむばかりであります。

先生は、一九五四年三月に京都大学文学部哲学科を卒業後、同大学院で西洋哲学を専攻され、主として古典ラテン語学・古典ラテン文学を研究されました。

一九五八年四月に大谷大学文学部非常勤講師になられ、一九六四年四月に文学部助教に就任されました。私は一九六三年四月に大谷大学文学部に入學し、二回生で水野先生にドイツ語を教えていただきました。大変学識豊かな先生で、できの良くない私などに対しても、熱心に指導し



てくださいました。黒板を消す時間が勿体無いと言われ、白いチョークで書かれた後、黄色、赤、青のチョークが使われて時間いっぱい授業されました。先生の真剣な授業に感化された受講生は数多く、分野・専攻は違いますが、学問を志して教職や研究職に就いている卒業生は少なくありません。

先生は、大谷大学では、ドイツ語とラテン語を教えておられました。十四年間ほど文学部助教を務められ、一九七八年四月に短期大学部教授になられました。主として国文学で先生のご専門の古典ラテン文学を『西洋古典文学』というテーマで授業されました。学生たちには、難解すぎて十分に理解できなかったかもしれませんが、先生は、少ない受講生に對しても、手加減されずに熱心に授業されました。一九九四年三月にご退職されるまで十五年間ほど短期大学部で授業されました。大谷大学文学部で教鞭をとられた期間と合わせますと、約三十年間にわたり、ご指導いただきました。ありがとうございます。感謝申し上げます。なお、先生の業績は、数多くあり、著名なものとして、『世界古典文学全集十六』『アリストテレス』(一九六六年八月 筑摩書房 共訳)や『プラトン全集』三巻・十四巻(一九七五年五月、一九七六年六月 岩波書店 共訳)などがあげられます。

大谷大学教授 国文学
石橋 義秀

2008年度後期 大谷大学生涯学習講座のご案内

大谷大学では様々な教養を身につけたい方に、大谷大学の知的資産をベースとした生涯学習講座を開講しています。大谷大学ならではの宗教・信仰を求めていく講座、現代社会をいかに生きるのかをテーマとする講座、京都の文化の奥深さを知る講座など、切り口は多様ですが、共通するテーマは「人間」です。大谷大学の生涯学習講座にご期待ください。

開放セミナーのご案内

1	テーマ	大乘仏教のあゆみ 一親鸞の眼を通して④ 「他力の仏道—曇鸞—」 〈協賛:NPO法人 尋源舎〉
	講師	延塚知道(大谷大学教授)／山野俊郎(大谷大学教授) 桂華淳祥(大谷大学教授)
	開講日	10月29、11月5・12・26、12月3・10日(水)
	時間	18:00～19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
	受講料	6,000円(税込)
申込締切	10月22日(水)当日消印有効	
2	テーマ	大乘仏教のあゆみ 一親鸞の眼を通して⑤ 「末法に生きる—道綽—」 〈協賛:NPO法人 尋源舎〉
	講師	大内文雄(大谷大学教授)／藤嶽明信(大谷大学教授) 采筆 晃(大谷大学講師)
	開講日	2009年2月4・18・25、3月4・11・25日(水)
	時間	18:00～19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
	受講料	6,000円(税込)
申込締切	2009年1月28日(水)当日消印有効	
3	テーマ	「目ごとになみだをかけにける —『心中天竺島』の世界—」
	講師	沙加戸 弘(大谷大学教授)
	開講日	10月9・16・23・30、11月6・13日(木)
	時間	18:00～19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
	受講料	6,000円(税込)
申込締切	10月2日(木)当日消印有効	
4	テーマ	「チベットに向き合った日本人たち」
	講師	三宅伸一郎(大谷大学講師)ほか
	開講日	10月25、11月22・29、12月6・13・20日(土)
	時間	14:00～15:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
	受講料	6,000円(税込)
申込締切	10月17日(金)当日消印有効	

紫明講座のご案内

1	テーマ	「宗教社会学入門」
	講師	寺林 脩(大谷大学教授)
	開講日	10月31、11月14・21日(金)
	時間	18:00～19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
	受講料	3,000円(税込)
申込締切	10月24日(金)当日消印有効	
2	テーマ	「カフェで哲学—比較宗教学から新しい宗教概念へ—」
	講師	Michael Pye(大谷大学客員教授/マールブルク大学名誉教授)
	開講日	11月24、12月1・8日(月)
	時間	18:00～19:30
	定員	50名限定(応募者多数の場合は抽選とさせていただきます) ので、その旨あしからずご了承ください。
	会場	ビッグハレーカフェ
	受講料	4,000円(税込・お茶代込み)
申込締切	11月17日(月)当日消印有効	
3	テーマ	「『三国志』の世界」
	講師	金 文 京(京都大学人文科学研究所教授/大谷大学非常勤講師)
	開講日	11月25、12月2・9日(火)
	時間	18:00～19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
	受講料	3,000円(税込)
申込締切	11月18日(火)当日消印有効	
4	テーマ	「明治維新史のひとこま」
	講師	河内昭圓(大谷大学名誉教授)
	開講日	2009年2月19・26、3月5日(木)
	時間	18:00～19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
	受講料	3,000円(税込)
申込締切	2009年2月12日(木)当日消印有効	

【申し込み方法】

講座案内を請求される場合にはハガキ、ファックス、Eメールのいずれかにて、①氏名・フリガナ②〒・住所③電話番号を明記してください。また、講座を申し込みの場合は、上記①～③に④講座名を明記の上、下記までお申し込みください。

【申し込み/問い合わせ先】

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学教育研究支援課 MU係

TEL:075-411-8161 FAX:075-411-8162 E-mail:opensemi@sec.otani.ac.jp

*講座名等とは変更されることがあります。各講座の詳細については、教育研究支援課までお問い合わせください。



- 校章
- 大谷大学印
- 知進守退
- 人間が大好きです。
- 尋源館
- 大学ロゴマーク

大谷大学オリジナルグッズとして、オリジナルタンブラーとHELLO KITTYストラップに引き続き、オリジナル瓦せんべいが完成しました。
瓦せんべいの価格は一、〇〇〇円(十八枚入り)で、校章や尋源館など大谷大学に関連した六種類の焼き印を使用しています。購入部で販売していますので、ぜひお買い求めください。

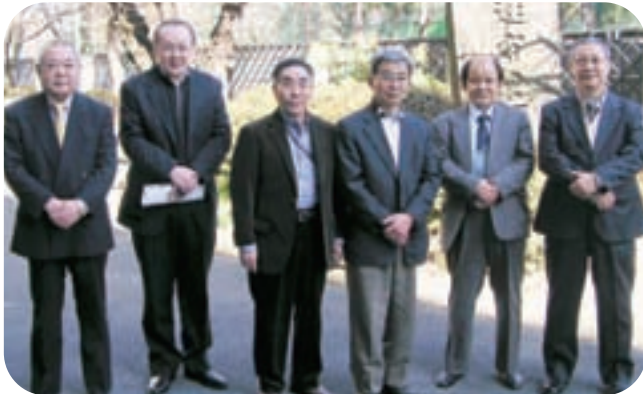
**大谷大学
オリジナルグッズが完成**

岩見先生傘寿記念
 昭和34年入学フランス語ク
 ラス同期会（2007.8.31）
 恩師岩見至先生が傘寿を迎
 えられましたので、当同期
 会では先生を囲んで、長良
 川の鵜飼を見学しながらお
 祝いの会をもちました。な
 お、あいにく全員が写った
 写真がありません。



同期会、ゼミ・クラス会、 OB・OG会

恩師を囲んで



昭和38年度卒業同期会（2008.2.20）
 卒業後44年振りの再会に、時がたつのも忘れ、朝まで語り合いました。
 次年度も開催の予定です。



2001年卒大谷大学短期大学部仏教科同窓会（2008.2.16）
 忙しい時期だったこともあり、少人数の同窓会でしたが、笑顔のあふれる楽しい
 ひとときを過ごすことができました。



白館戒雲教授退職記念パーティー（2008.2.21）
 ツルティム・ケサン（白館戒雲）教授の退職記念パーティー
 が、2008年2月21日（木）ホテルフジタ京都にて盛大におこ
 なわれた。卒業生や学内外の関係者80余名の参加があった。



西田潤一先生退職記念祝賀会（2008.3.8）
 2008年3月8日（土）、ホテル日航プリンセス京都で行われたご退職記念祝賀会は、おだや
 かで親しみのある雰囲気だったことが印象的である。西田先生の息子さんから届けられたメ
 ッセージを聞きながら、学問だけでなく、よき家庭を築かれたお人柄に“乾杯”。



昭和34年入学フランス語クラス同期会
 一岩見至先生を囲んで（2008.2.26）
 昨年傘寿を迎えてなお矍鑠たる岩見至先生を囲んで、越前ガ
 ニに舌鼓を打ちながら深夜まで懇談。蓮如上人縁の吉崎御坊
 参拝も忘れません。



長谷正當先生退任記念感謝会 (2008.3.12)
長谷正當先生の定年退任をお祝いし感謝する会が、3月12日京都ホテルオークラで開催されました。学部のゼミ卒業生や大学院卒業生を中心に多くの人々が集まり、長年のご指導に感謝いたしました。



宮崎教授ゼミ会 (2002年卒業) (2008.3.8)



中川皓三郎先生最終講義並びに謝恩会 (2008.3.14)
短期仏教科で熱心にご指導下さった先生のお人柄を慕って、全国各地より多くの卒業生が集まりました。たくさんの方から心あたたまるスピーチを頂き、思い出に残る謝恩会となりました。



第2回 北海道人会 (在学生・支部長の交流会) (2008.5.14)
一昨年から開始された北海道同窓会各支部長と現役学生との合同道人会が、今年も5月14日に開催されました。今年からは学生が幹事役を務めて開催されました。



自灯寮一期生の集い 還暦を共に祝う会 (2008.4.20)
還暦を迎え益々元気な自灯寮一期生！在学中亡くなった友を偲び本山でお参り。寮監の寺川先生ご夫妻を囲み、懐かしい寮生活の話に花を咲かせました。大学の配慮で旧自灯寮を見学。みんな感激いたしました。



大谷大学実践学寮第3期生同窓会 (2008.5.23)
寝食を共にした26年前の寮時代の思い出話に花が咲きました。次回は3年後の11月に九州で開催することになりました。



第22回『谷大一八会』(2008.5.17)
昭和18年入学の同期の一八会も、22回目を迎えました。年齢83才。さすがに参加者も僅か9名。でも来年もと意気盛んでした。



大谷大学同窓同期会IN大阪
(昭和32年入学 昭和36年卒業)
(2008.5.21)
各地をまわり今回は大阪での開催となった。古稀となり級友の訃報も多く、先ず難波別院に於いて追弔法要を行った後、宝塚温泉にて旧交を温めた。2年後、九州長崎に集う予定である。



第32回浄眼洞一夜研修会 (山田亮賢先生門下生の会) (2008.5.24)
他の参加者の皆さん、ゴメンナサイ。記念撮影を忘れませんでした。これは二次会です。



1984年卒業Gクラス同期会 (2008.5.24)
卒業後24年ぶりのGクラス会 (S61年卒) を5月24日にいろは旅館で開催しました。旧交を暖めた楽しいひと時を過ごしました。

お問い合わせは……
特定非営利活動法人 尋源舎
www.zingensya.jp
zingensya@gmail.com
大谷大学校友会センター 〇七五・四一一・八二二四

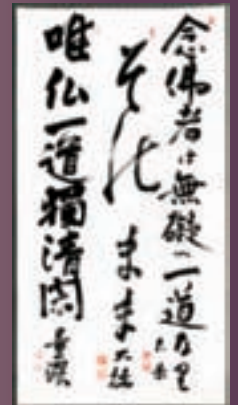
残り10幅限 お申込はお早めに！

ご協力ありがとうございました。

原本・複製許諾……大谷大学博物館
製作年月……平成二〇年八月
製作数……一〇〇幅
(ロフトナンバー 桐箱入り)
販売価格……一五〇,〇〇〇円
(消費税・梱包・発送費含)
箱書……大谷大学長 木村宣彰

昭和三十六年(一九六二)に真宗大谷派が開催した親鸞の七百回遠忌を記念した座談会に参加した鈴木大拙・曾我量深・金子大栄に竹田淳照氏が乞うて寄せ書きしたもの。この時の座談会は、のち『親鸞の世界』として公刊された。竹田淳照氏旧蔵。

金子大栄「念仏者は無碍の二道なり」
鈴木大拙「そのまま」
曾我量深「唯仏二道独清閑」



複製 三筆一軸
鈴木大拙・曾我量深・金子大栄
合筆墨蹟



廣瀬晃先生ゼミ(1971年卒業) 還暦祝い同窓会 (2008.6.19)
卒業後38年、還暦を機に2回目の同窓会をしました。年を経て話せる生い立ち、そして出遇った人生を清々しく話し合えた集いでした。



写真部O B会(昭和45年~47年卒業) (2008.6.7)
40年前の合宿地である七尾の明願寺にて、写真部O B会を開き、旧交をあたためました。



大谷大学33同期会北海道大会
(2008.6.23)

今回は、サミットが開かれる北海道洞爺湖周辺と登別・定山溪・小樽で2泊3日の日程でした。参加者数は33名内同伴7組で、入学以来半世紀が経ち、久しぶりで再会された方も学生の頃に帰って、おおいに語らい旧交を温めました。明年は新潟での開催予定です。



大谷大学硬式野球部O B会総会 (2008.6.29)
O B会総会を開催し、15名が集いました。総会では、築山修道会長、東光真澄副会長、黒川芳行副会長、藤川慎一副会長が選出され、今後のO B会運営についての意見交換がなされました。また、10月26日に現役との交流戦を行う予定です。ぜひご参加ください。



昭和39年度下鴨学寮入寮者同窓の集い (2008.6.24)
大学を卒業して丁度、今年が40年の節目。1回生の時、下鴨学寮に入寮した者が初めて一同に会し、懐かしいひと時を過ごしました。

参加のお申込、詳細はホームページをご覧ください。
特定非営利活動法人 尋源舎
www.zingensya.jp
zingensya@gmail.com

第二回 尋源仏教塾開催日決定

期日…2008年11月28日(金)~29日(土)
会場…大谷大学湖西キャンパスセミナーハウス

■参加資格/大谷大学同窓会会員で、インターネットに接続できるスキルと環境をお持ちの方。
■参加時期/24時間いつでも、全国どこからでもご参加いただけます。
■参加方法/OTANI UNSにご参加いただき、「UNSボランティア」のコメントに登録ください。

UNSボランティア募集

尋源舎では、同窓会組織の次世代コミュニケーション基盤であるOTANI UNSにご協力いただける方を募集します。積極的に友人の参加を促進し、クラブ、ゼミなどのコミュへの参加。または楽しく活発なコミュづくりに努力していただくのが仕事です。

大谷大学人の「知」を集結
<http://mujinto.org/>





長浜支部在学生との懇談会 (2008.7.2)
長浜支部では去る7月2日、在学生を対象に懇談会を開催しました。20人が参加し、大変有意義な集いでした。



児童文化研究会 第2回同期会—谷口君を偲んで— (2008.6.29)
昭和55年入学の児文研同期会を、福井県の浄信寺で行いました。谷口君のお墓参りもさせて頂き、心和むひとときでした。



大谷大学短期大学部幼児教育科同窓会20th (平成元年卒業) (2008.7.6)
幼児教育科を卒業して20年。恩師も含め31人が集い、学生時代の思い出で盛り上がり、楽しいひとときでした。



第33回大谷大学バスケットボール部OB・OG会 (2008.7.5)
筆者が生まれる前から始まったOB・OG会も、今年で33回目を迎えました。遠方からも多数お集まりいただき、交流戦・懇親会ともに、現役の皆さんと楽しく過ごしました。

ソフトテニス部OB会 (2008.7.6)
本年度のOB会は、例年と異なり、湖西で行いました。整備されたコートでOB・現役ともに、純粋にテニスを楽しめました。



大谷大学自動二輪同好会第5回OB・OG会 (2008.7.19)
OB・OG会の一番の喜びは、後輩の子に「また来ていいですか?」と質問されること。もちろん楽しんでくれるなら、いつでも、ボクらに顔を見せて下さい♪
幹事 (伊奈・家本・田中)



延塚知道先生 博士号取得
および還暦記念講演ならびに祝賀会 (2008.7.12)
延塚ゼミ同窓生が全国各地から集い、先生の博士号取得、還暦のお祝いをしました。

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会を開催企画される場合は、同窓会本部へご連絡ください。連絡用リスト(名簿)・宛名シールの提供ならびに通費等の一部として開催助成金(1万円)を補助させていただきます。また、同窓会ホームページ「無盡燈」へも開催の告知および報告を掲載いたします。

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会等の開催をお世話いただく幹事さんへ

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会開催一覧

開催日	会 合 名
2007.8.31 (金)	岩見先生傘寿記念 昭和34年入学フランス語クラス同期会
2008.2.16 (土)	2001年卒大谷大学短期大学部仏教科同窓会
2008.2.20 (水)	昭和38年度卒業同期会
2008.2.21 (木)	白館戒雲教授退職記念パーティー
2008.2.26 (火)	昭和34年入学フランス語クラス同期会ー岩見先生を囲んでー
2008.3. 8 (土)	西田潤一先生退職記念祝賀会
2008.3. 8 (土)	宮崎教授ゼミ会 (2002年卒業)
2008.3.12 (水)	長谷正當先生退任記念感謝会
2008.3.14 (金)	中川皓三郎先生最終講義並びに謝恩会
2008.4.20 (日)	自灯寮一期生の集い 還暦を共に祝う会
2008.5.14 (水)	第2回 北海道人会 (在学生・支部長の交流会)
2008.5.17 (土)	第22回「谷大一八会」
2008.5.21 (水)	大谷大学同窓同期会IN大阪 (昭和32年入学 昭和36年卒業)
2008.5.23 (金)	大谷大学実践学寮第3期生同窓会
2008.5.24 (土)	1984年卒業Gクラス同期会
2008.5.24 (土)	第32回浄眼洞一夜研修会 (山田亮賢先生門下生の会)
2008.6. 7 (土)	写真部OB会 (昭和45年~47年卒業)
2008.6.19 (木)	廣瀬果先生ゼミ (1971年卒業) 還暦祝い同窓会
2008.6.22 (日)	大谷大学バレーボール部OB・OG会
2008.6.23 (月)	大谷大学33同期会 北海道大会
2008.6.24 (火)	昭和39年度下鴨学寮入寮者同窓の集い
2008.6.29 (日)	大谷大学硬式野球部OB会総会
2008.6.29 (日)	児童文化研究会 第2回同期会ー谷口君を偲んでー
2008.7. 2 (水)	長浜支部在学生との懇談会
2008.7. 5 (土)	第33回大谷大学バスケケットボール部OB・OG会
2008.7. 6 (日)	ソフトテニス部OB会
2008.7. 6 (日)	大谷大学短期大学部幼児教育科同窓会20th (平成元年卒業)
2008.7.12 (土)	延塚知道先生 博士号取得および還暦記念講演ならびに祝賀会
2008.7.19 (土)	大谷大学自動車輪同好会第5回OB・OG会
2008.7.20 (日)	名畑ゼミ同窓会 (平成8年卒業)
2008.7.22 (火)	大谷大学育英学寮同期会 (昭和35年)
2008.7.30 (水)	谷大40年卒の集い



名畑ゼミ同窓会 (平成8年卒業) (2008.7.20)

思い出話に続いたのは、ご縁や感謝という言葉。それを自然に口にしたり、受けとめた人がいるー今もやっぱり谷大生としました。



大谷大学育英学寮同期会 (昭和35年) (2008.7.22)

7月22日に、16人の参集のもと、寮の同期会を実施いたしました。我々元気のうちに「くぎり」の会をもちました。

『無盡燈』への広告掲載募集!

機関紙『無盡燈』(「同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会」報告ページ)に広告を掲載することができます。

- ・全1段 (タテ6cm×ヨコ18cm) 100,000円
- ・1/2段 (タテ6cm×ヨコ8.9cm) 50,000円
- ・1/4段 (タテ6cm×ヨコ4.4cm) 25,000円

TEL 075-411-8124
FAX 075-411-8157
E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp



谷大40年卒の集い (2008.7.30)

谷大40年卒の同窓の集いも7年目を迎えました。還暦の年に始まった集いが今年は湯布院で7月30日~7月31日に盛大のうちに終了した。

日本空手道大濤会 (創立40周年祝賀会) (2008.7.19)
大谷大学空手道部の卒業生が中心になって組織した会が創立されて40年を迎え、金沢市で祝賀の会を盛大に開催いたしました。当日は、創部当時の卒業生から最近の卒業生まで、また先輩らの教え子である会員の方が大変多く参加しました。



通 信



「キセキな出逢い」

佐々木 昌信

(一九九一年文学部真宗学科卒業)

私は学生時代、はっきりいってまじめな学生ではなかった。すべてにおいて中途半端で、学業にも、スポーツ（硬式野球部）においても、バイトもそうであった。そんな私が、「出逢い」という言葉を講義で聞き、その後の、ある出逢いによって人生が大きく左右されることになりました。

まず、最初の「出逢い」は、大学四年の時の元セ・リーグ審判の方との出逢いでした。その方の勧めで、審判試験を受験することになり、合格してしまっただけです。そして、審判として下素人の私が、果してプロの世界でやっていけるだろうかと心配でたまらなかつた時、審判指導員との第二の「出逢い」がありました。手取り足取りのご指導で、私があるレベルまで押し上げていただいた恩人です。技術はもちろん、プロの世界は精神面が九〇%だと叩きこまれました。「知って

いる」ことと「分かつている」ことは、「天と地」程違うことだと、大学時代に教わったことを思い出しました。今では年間百試合、オールスターも日本シリーズも出場させてもらうようになりました。そんな中で、特に印象に残っている試合は、ヤンキース対巨人の一戦に球審をさせていただいたことです。テレビで見ていたMLBのスタースター軍団を間近に見ることができました。そして、日本の投手では投げられない一五五kmの動くストリートに出逢うことができました。ドまん中の打球でしたが、今のは何だと判定が遅れてしまう程の驚きでした。打者の清水選手も「今、ボール動きましたよね」と、失笑しながら私に言いました。パワーもケタ外れで、日本のパワーヒッターがMLBに行っても苦労することが分かりました。また、反対にイチロー選手や、緻密さを持つ投手が活躍することも頷けました。

私は今、プロの審判としていろんな経験をさせていただいています。日本全国を遠征し、そして多くの人々と「出逢い」、心身ともに成長させていただいております。

日々是精進、今になって心に響いている今日此頃です。

合 掌
(セ・リーグ審判員)

結婚

おめでと〜いございます

幸せなご家庭を築かれることを
念じ申し上げます。

() 内は最終卒業・修了年 (敬称略)
※同窓会本部掌握分

鈴木 晃英(二〇一〇)	田中 晃子
笹田 健州(一九七〇)	黒川 順子
橋本 和麻(二〇〇四)	稲垣 瑠子(二〇〇八)
村田 直樹	野村 温子(二〇〇五)
奥野 明(二〇一〇)	松尾 満香(二〇〇〇)
真城 等史(一九九七)	堀 水希
桑野 晶喜	佐原 麻紀(一九八七)
石川 明良(二〇〇四)	古川 泰子(二〇〇四)
小林 浩	中居さやか(一九九七)
岡村 修幾	古川 愛子(二〇一〇)
人見 牧生(二〇一〇)	上野乃倫子(二〇〇五)
猿原 百(一九九七)	安藤 紀子(二〇〇〇)
金 恩浩	早川 智美(二〇〇四)
富田 珠雲(一九九七)	尾本 典子(一九九七)
西出 喜則(二〇〇三)	明野 優子(二〇〇三)
太田 正人	山田 文子(二〇一〇)
宇川 豊司(二〇〇三)	大沢みゆき
金子 元紀(二〇〇六)	玉川 由佳(二〇〇六)

敬 弔

ご生前のご功勞を偲び、
謹んで哀悼の意を表します。

() 内は最終卒業・修了年 (敬称略)
※同窓会本部掌握分

石黒 輝雄	文学部 (一九五〇)	二〇〇七・五・二五
猪原 映	大専門 (一九四八)	二〇〇七・七・一四
佐々木 達哉	文学部 (一九八三)	二〇〇七・六・一五
北山 巖	文学部 (一九四一)	二〇〇七・九・一八
立島 亨	文学部 (一九六三)	二〇〇七・〇・一四
細川 光真	文学部 (一九五三)	二〇〇七・一・二四
鷺尾 光真	文学部 (一九五五)	二〇〇七・一・二四
山縣 龍観	大専門 (一九四二)	二〇〇七・一・二五
小谷 了温	大専門 (一九三七)	二〇〇七・一・二七
河邊 昭	文学部 (一九四一)	二〇〇七・一・三三
中山 隆	文学部 (一九三八)	二〇〇七・一・三五
亀田 秀蔵	文学部 (一九四六)	二〇〇七・三・一六

「青花を摘む」

青花は、古より江州草津の特産で友禪の下絵を描く染料をとる花である。露草の背丈と花の大きさを三〜四倍にしたものを想像して頂けばよい。

毎年、学生と北海道内のアイヌ民族を訪ね、また和人と交渉史に関わる地を歩く旅行を行っているが、昨年その行程でアイヌの刺繍家の女性から、「青花の染料で描いた絵を見たが、ホントにきれいだった。あの染料が手に入らないかしら」と話されたことから、青花を育て染料をとる作業をすることになった。幸い、この旅行に数回参加している卒業生が苗を入手してくれた。

七月の下旬に入り花が咲き始めた。大型の花が一斉に而も次々と毎日咲く。その清楚で澄み切った青が畝を覆って波を打つ。思わず、何て奇麗なんだろう！と。ここまではよかったのだが、毎朝五時頃から二時間半余り、その花びらを摘まなければならぬ。それを篩（ふるい）にかけて花粉や萼などを丁寧に取り去り、木綿の布で絞ると、濃い青色の汁が出てくる。溜まった汁を、手漉きの薄い和紙にハケで塗って乾かす。乾くとまた紙に塗る。それを何度も繰り返し、紙の重さ

が七〜八倍になれば完成である。この紙を少しちぎって少量の水に入れ、筆にかけて描くのである。

文字にすれば簡単だが、朝陽が高くなり背中が焼けるように熱くなるまで頑張る。花びらを摘みながら、三十二年前の秋、東本願寺大師堂の爆破事件を機に出会ってきた多くのアイヌの人々と、様々な紡いできた自らの足跡を、自然に思い起こしている。

この間アイヌの人々から、苦渋の風雪を通して大地から滲み出てきたような厳しさや優しさにも出会ってきた。そしてまた、毎年訪れる大雪山系をカムイミンタラ、つまり「神々の遊ぶ庭」と表現する美意識、あるいは宗教感覚をもつ人々、それが僕にとつてのアイヌ民族でもある。青花を、そして青花の染料の美しさを見ていると、この美しさに身近に出会いたいというアイヌの心に、どうしても応えたくなくなってしまった。買えば簡単なに自分でこの色を絞りだしたいというコダワリが、僕を汗まみれにさせている。

大谷大学教授・仏教と人權
泉 惠機

表紙絵

「越後の親鸞」(部分)

155 × 240 cm 二〇〇八年作

今夏も暑く、日本の夏は温暖化ではなく熱帯化している。時たまの雨はまさにスコールでこのような雨に慣れていない我国では人災をもたらしてしまう。日本の建物は夏の住居を基本としてつくられているが、流罪となった越後での親鸞聖人の、夏はともかく冬の生活の厳しさは想像に難くない。

本地垂迹説で熊野御幸は上皇に義務づけられた重要な国事であった。上皇でさえも潔斎を通して国家安寧の祈願をしている時の「六時礼讃」による女官（又は寵愛の白拍子）の外泊は、後鳥羽上皇の逆鱗にふれるのは当然といえる。

しかし全くのとはちりりて法然の弟子というだけで、親鸞は流罪として最も重い遠流として越後に配された。親鸞伝絵にはこう記されている。「大師聖人もし流刑に処せられたまわらずは、われ配所に赴かんや。もし配所におもむかずば、何によりてか辺鄙の群類を化せん。これなお師教の恩致なり。」法然上人が流刑になられたからこそ越後の人々に仏の教えを説く機会が自分にもおとずれたことに感謝し、配所へ赴こうという心境を示している。

親鸞聖人が流罪となつて八百年が過ぎた。私はその周辺をめぐって越後の聖人のことを考える。具体的にどのようにして人々を教化されたのであろうか。還俗させられて自ら「愚禿善信」と名のつた。禿は垂れ髪をいう。流刑地で頭髪を伸びるにまかせ肩のあたりで先だけを切りそろえた垂れ髪だったのだろうか。流罪を解かれて剃髪に戻られたという。日々の生活はどうされていたのであるか。流罪二年目からの米、塩の配給のない生活の糧や恵信尼のこと、私の頭の中は聖人の一生を具体的に絵で表わそうとしてぐるぐる巡っている。

居多浜に着岸し赤岩と呼ばれた岩場は宝暦年間の大地震で埋没して今は岩礁ひとつ見あたらない。寺泊の海岸の松は海からの烈風で地を這うように必死で片側へと伸びている。私はこの風景に越後の厳しさを見た。

畠中光享（一九七〇年文学部卒）

京都造形芸術大学教授
大谷大学非常勤講師

2008年9月19日発行

発行 大谷大学同窓会本部
編集 無盡燈編集委員会

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内
電話 (075) 411-8124 FAX (075) 411-8157
振替 01020-9-20542

同窓会ホームページ <http://www.mujiinto-otani.org/>

E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp

『無盡燈』の題字について 親鸞聖人の真蹟の坂東本『教行信証』から集字したものです。『維摩経』に「無盡燈というのは、譬えば一つの燈をもって百千の燈をともしようなものである。冥やみがみな明るくなるが、その明りはついになくなることはない。…説かれた教えのとおりにみずから一切の善いことがらを増しふやす。これを無盡燈となづける」とあり、先輩がともし続けた伝統に輝く燈の名に恥じないことが願われています。